

学ぶ・つながる ～公民館事業紹介～

音のない世界をつなぐ

～手話言語と「くにきた」で学ぶ子どもたち～

手話が共通言語のカフェが国立駅の駅ナカに開店して話題になっています。国立駅から北側に広がる地域「くにきたエリア」には、立川ろう学校（立川市栄町）や手話に特化した学習スタジオ（国分寺市光町）があり、聞こえない人と聞こえる人が行きかう街となっています。

光公民館では、バリアフリー講座「音のない世界をつなぐ」を令和2年11月・12月に開催しました。手話に触れるのが初めての人から、手話を学んだことのある人や今も活かしている人、聞こえない当事者まで幅広い参加がありました。

講師は、立川ろう学校で学び、ろう学校の教員を経て現在は塾講師として聞こえない子どもたちに寄り添う^{ゆき}箭内秀平さん。



国分寺市に生まれ、1歳半で音のない世界に入ったという生い立ち、ろう学校で学ぶ子どもたちの様子や手話言語の特徴と聞こえない人たちの暮らしについて手話と表情や動きで熱く語られました。さらに「デフリンピック」（聴覚障害者のオリンピック）で自身も日本代表選手として活躍する自転車競技の紹介もあり、大いに盛り上がりました。

講座には、講師が手話で話し、それを読み取った通訳者がマイクで参加者に音声通訳する、反対に手話が必要な参加者と講師に対しては音声から手話にする、という通訳の流れ自体が新鮮な経験となった参加者もいたようです。

今後も、子どもや保護者を対象にした講座を開催するなど、聴覚障害者の方々が持つ文化の理解を地域で進めていきます。

問合せ 光公民館 ☎ (042) 576-3991

中学生の職場体験から生まれた文化講座

「麗しの宝塚の世界

名作エリザベートからその魅力を紐解く」

もとまち公民館は毎年、第四中学校の生徒を職場体験で受け入れています。職員とともに公民館の様々な仕事を体験する中で、公民館の講座を考えるプログラムを実施しています。今年度はその中学生が考えた企画の中から、宝塚歌劇団をテーマにした講座を実施しました。



〈貴重な映像資料に参加者は引き込まれていました〉

講座では様々な映像資料を用いながら、宝塚歌劇団の歴史からスターシステムや組制度など宝塚歌劇団の「清く 正しく 美しく」の世界を生み出すための様々な仕組みについて学びました。

また、宝塚歌劇団の代表的な演目である『エリザベート』を、ミュージカルなど他の演劇と比較しながら作品を紐解くことで、より宝塚歌劇団の舞台芸術としての魅力を参加者に深く学んでもらうことができました。



〈10代から70代まで幅広い年代の方が参加しました〉

講座には企画を考えた中学生も参加し、自分のアイデアが実際の講座となる貴重な体験をしてもらうことができました。また、公民館の仕事の楽しさや大変さ、働くことの意義なども、より深く学んでもらうことができました。

公民館では小学生や中学生が公民館と積極的に関わってもらうための様々な取組を行っています。そうした取組を通じ、子どもたちに安心で身近な場として公民館に親しみを持ってもらい、より多くの子どもたちに利用してもらえよう、魅力的な事業をこれからも実施していきます。

問合せ もとまち公民館 ☎ (042) 325-4221

学校がきれいになりました

教育環境の向上を図り、児童・生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう、今年度は、第一中学校、第二中学校体育館棟、第三中学校のトイレ改修工事を行いました。また、第六小学校、第二中学校体育館棟の屋上防水及び外壁塗装工事を行いました。

快適な教育環境の整備のため、今後も市立小中学校の改修工事を進めていきます。



問合せ 教育総務課 ☎ (042) 574-4040

探してみよう ～国分寺市の文化財～

村巨細日記（むらこさいにつき）

○市重要有形文化財（古文書・古記録）

○所在地：西元町一丁目（寄託）



〈村巨細日記〉

「巨細」とは、細かに詳しく、という意味なので、恋ヶ窪村で起きた様々な出来事を日記として、月日を追いながら一つ一つ書き記したものです。村の代表者であり、責任者でもある名主の喜三郎が親子二代にわたって、村の歴史を書いた記録です。

日記は、喜三郎が天保7（1836）年に村の歴史を後世の子孫のために残そうとして書き始めました。まず、先祖が書き残した書類を写して、過去の歴史を簡略に書き、自分が名主に就任した文政10（1827）年頃から、大事だと判断した事柄について書いています。

喜三郎は、序文のなかで、自分は先祖代々村の名主を勤めてきた坂本家の子孫であるから、自分自身の日記としてではなく、村の日記として書いているのだといい、これから後の子孫が書き継いでくれるように頼んでいます。事実、喜三郎は嘉永6（1853）年に亡くなりますが、以後は喜三郎を継いだ息子が書き続けて、明治3（1870）年の江戸時代以来の最後の名主に喜三郎（息子）が就任した記事で終わっています。明治5年に名主が廃止され、喜三郎が書く村の日記も役割を終えました。天保7（1836）年から明治3（1870）年までの、実に35年間書き続けた記録です。

この日記の中から嘉永6（1853）年の記事の一つ御紹介いたします。馬頭観世音の石塔を建立した時の記事で、村じゅうの人たちから集められたお金を使って、小川村（現在の小平市）の石屋市左衛門に頼んで金1両2朱で購入したと書かれています。この石塔は、今も東福寺境内の本堂へと上がっていく石段の左側にあります。探してみたいかでしょうか。何か発見があるかもしれません。



〈馬頭観世音の石塔〉

問合せ ふるさと文化財課 ☎ (042) 300-0073

史跡の整備をしました

平成23年度から武蔵国分寺跡僧寺地区伽藍中核部において整備工事を進めてきました。今年度は、中門東側一角の整備を行い、公園管理用車両の進入口を設置し、広域避難場所の看板を新しいものに建て替えました。また、伽藍中核部には昔の武蔵国分寺について、イラスト付きでわかりやすい解説板4基を設置しましたので、ぜひご覧ください。

今後も市民に親しんでもらえる史跡の整備を行っていきます。



〈工事後の中門東側一角〉



〈解説板〉

問合せ ふるさと文化財課 ☎ (042) 300-0073

教育委員会の動き

令和2年10月から令和3年1月までの間に、定例会を4回、臨時会を1回開催しました。定例会や臨時会の議事録は、随時、市のホームページに掲載しておりますので御覧ください。（上記のQRコードからアクセスできます。）



議案を1件御紹介します！

〈令和元年度国分寺市教育委員会教育ビジョンに基づく主要施策の点検及び評価について〉

教育委員会が行っている事務の実施状況等について、点検し評価を行っています。その結果は、市のホームページや図書館等で公開しています。



その他の主な議案は以下のとおりです

- ・国分寺市重要文化財の指定について（諮問）
- ・中学校における巡回型特別支援教室の拠点校の設置について

＜教育委員会定例会の開催日程（予定）（2月1日現在）＞

2月25日（木）午前9時30分～、3月24日（水）午後4時～
4月15日（木）午前9時30分～、5月27日（木）午前9時30分～
会場：ひかりプラザ2階203・204号室

※日程・会場は変更になる場合があります。最新の情報は市のホームページで御確認ください。（右記のQRコードからアクセスできます。）

※上記日程以外に、必要に応じて臨時会を開催することがあります。

※定例会の傍聴を希望される方は、当日直接会場までお越しください。申込みは不要です。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、傍聴の自粛をお願いする場合があります。最新の情報は市のホームページで御確認ください。

問合せ 教育総務課 ☎ (042) 574-4040